

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
海運論	交通市場での海運の役割	栗田 善吉	2 年次後期
講義の目的	本講義では、国内・国際交通市場における海運に関する基礎的知識として、海運の現状と我が国経済社会における海運の役割、海運事業の仕組みについて理解すること、さらに、交通市場全体が抱える問題点を整理・理解したうえで、今後の海運事業のあり方について、自らの意見を述べられるようになることを目的とします。		
到達目標	日頃、身近に接することが少ない海運事業について、我が国経済活動における重要性について理解する。		
講義内容	一口に海運（海運事業）といっても、内航海運と外航海運、人の輸送と物資（貨物）の輸送といった分類ができます。本講義では、内航海運（国内輸送）、特に貨物の輸送に重点を置いて、海運の果たす役割、海運事業の仕組みや現状について、最新の情報や事例を交えて、分かりやすく説明します。また、海運を支える港湾の問題についても基本的な事柄を説明します。		
講義スケジュール	第1講	オリエンテーション（海運論で学ぶことや講義の進め方の説明）	
	第2講	内航海運と外航海運について	
	第3講	船の種類と役割（定期船、不定期船、タンカー、LNG 船、自動車運搬船）	
	第4講	内航海運の現状（規制と輸送実績等）	
	第5講	カボタージュ規制について	
	第6講	内航フィーダー輸送について	
	第7講	静脈物流と内航海運について	
	第8講	内航海運暫定措置事業について	
	第9講	モーダルシフトについて（環境問題との関係を踏まえて）	
	第10講	地域公共交通としての海運事業（旅客船について）	
	第11講	外航海運について	
	第12講	外航海運と我が国の貿易について	
	第13講	港湾の運営と港湾政策について	
	第14講	今後の海運の展望（国の海運政策の展望）	
	第15講	まとめと総復習	
指導方法	プリントを配布すると共に、パワーポイントによるスライドを活用しながら講義を進めます。配布するプリントは不完全な内容であり、重要事項について講義を受けながら完全なノートを作成する形式とします。		
授業外学習	海運事業、特に貨物の輸送は、わが国と海外との貿易と密接な関係にあります。日本はどのような物を輸出し、どのような物を輸入しているか、基礎知識として学んでおいて下さい。		
成績評価方法	評価の方法は、本試験（筆記試験）80%、平常点（レポート）20%で評価します。		
テキスト	毎回、プリントを配布しますので、特に指定しません。		
参考書籍	森 隆行編著「内航海運」晃洋書房、2014。 国土交通省海事局「海事レポート2018」日本海事広報協会。		
特記事項	比較的関心が薄いと思われる海運ですが、わが国の貿易や物流と密接な関係にあること、環境にやさしい交通機関でもあり、海運の役割は大きいと言えます。こうした観点から、海運事業について、積極的に学ぶ姿勢で受講して下さい。		